

海岸工事安全対策の見える化



写真-1 海岸工事安全対策説明図設置状況

+ 安全対策見える化『被覆石均し(据付)作業』

作業手順(被覆石玉掛け-据付作業)

STEP-1 吊チェーンを被覆石に玉掛する。(写真1) (くくり吊り: 1本吊り)

STEP-2 荷を吊り、玉掛けの状態・荷振れが無いことを確認する。(写真2)

- ※¹ 荷が落下しても損傷しない位置まで選定する。(選定よし!)
- ※² 選定場所は事前に荷重を確認し決めておく。
- ※³ チェーンが滑って荷が落下しないを確認する。(吊りよし!)

STEP-3 被覆石を据付場所まで移動する。

- ※ 吊り下には絶対立入らない!

STEP-4 チェーン上部を持ち据付調整を行う。(写真3)

- ※ 石と石の間には体(手・足)を入れない!

STEP-5 据付場所が決まったら、再度荷の安定を確認し、高さ調整用の石を入れる。(写真4)

- ※¹ 調整用石を入れる際は石の下に体(手・足)を入れない!
- ※² 据付場所の下地を確認する場合は一度移動し荷が無い状態でおこなう。

STEP-6 被覆石を据付し、荷の状態を確認する。

- ※ 石がくらくつく場合は、キャンパー材(石材)を入れ据覆石を固定する。

以上の作業を繰り返す。

「写真1」

玉掛けよし!

荷のバランスは良いか? 荷上げ用ワイヤは正しいか?

「写真2」

選定よし! 荷切りよし!

選定場所を確認する! 荷振れに備える!

「写真3」

据付訂正よし!

吊り直下には入らない!

「写真4」

荷の安定よし! 手元よし!

選定場所を確認する! 荷振れに備える!

〇玉掛けの安全確認

吊り方	1本吊り	くくり吊り (1本吊り)
荷		
安全確認	確認済	確認済

始業前点検(記録)は日々真剣に実施しよう!

これだけは守ろうよ!
『入るな!吊り直下と重機作業エリア』

写真-3 被覆石据付け作業安全対策の見える化

+ 安全対策見える化『濃霧による作業待機基準:水際作業(船舶を使用しない場合)』

「晴天時の作業風景」

水際作業範囲 鋼矢板

水際作業(船舶なし)における作業待機基準

- その1. 視程100m未満の場合。
- その2. クレーンブームトップが目視確認出来ない場合。
- その3. その他JV職員・作業従事者が危険と判断した場合。

以上の該当する項目があれば作業は一時中断・待機する。

※当該現場での水際作業とは、第一種埋 鋼矢板(鋼管矢板)から海側の海面に接する場所における作業をいう。(船舶を使用する海上作業については、別途中止基準があります)

霧が発生! 作業可能か判断を行う。

「濃霧発生時の作業風景」

ブームトップが目視確認出来ない場合、作業中断し待機!

水際作業範囲

「広島県での霧の発生状況について」

当該現場の位置する広島湾(倉庫山付近)は、日本沿岸海域の中でも多く霧の発生する場所です。

霧のなかで、もっとも注意を要するのは、**前線霧**と**海霧**です。これらは北東風におこり、半日から1日以上続く場合があります。

霧期は5月~8月、濃霧期は6、7月

前線霧: 春季における発生が最も多し、東北東から南西に延び、ゆっくり南下する寒帯前線の北側の領域の中で多く発生します。(この霧は夜にも発生するようです。)

海霧: 梅雨期は海霧の季節でもあります。

図: 日本沿岸海域での霧の発生状況

写真-2 濃霧による作業待機基準説明図

+ 安全対策見える化 (捨石・被覆石投入作業)

危険範囲

2m x 2m

重機OPと合図者との合図方法 作業時・・・無線機を使用します。

「石投入作業時『投入エリア』を明示します。」

「合図者は危険範囲より外側で合図を行います。」

「重機作業エリア立入禁止 (作業範囲両端をバリケードで明示してから作業します) ※重機作業エリアに立入る際は『グー・パー運動』を実施します。」

「グーパー運動」

機械の周辺などではグーパー運動を徹底しよう!

グーパー運動のしかた

- 1 通行者(オペレーター)に「パー」を出す「グー」を待たない!
- 2 オペレーター(通行者)に「グー」を出す「よし、おーっ」といって、通行者を止める!
- 3 オペレーター(通行者)に「グー」を出す「パー」を待たない!
- 4 通行者(オペレーター)に「パー」を出す「ありがとう、進め」といって、通行者を進ませる!

※ オペレーターから見て見える方向から進んで、合図する。(通行者から見て)

写真-4 捨石投入作業安全対策の見える化